

地方往來

二編

全



明治七年甲戌四月二編

官許

地方往來 全

東京書賈

青松軒藏版

地方往來二編

夫地之形狀を丸く

て橙實の如く成を以

之地球と云又此地

地方往來



球を一年夜中二十四

時間西より東へ一

轉回を成之を一日と

云又三百六十五日餘

して大陽を一周に

之を一年と云又此地

球上を数多の國有

之城五大湖子大別を

亞細亞洲歐羅巴海

南北亞墨利加洲大洋

海是也又我日本ハ亞

細亞洲北東隅太平洋

の西北ニ位置一萬古

不易此一帝國其邦内

有八十四海五畿八道

三府六十縣分又穀豊

饒ねりの土地とちがきば鬼おにと

勉つとめて益えき多あと雖いふまじ抑おさ農のう業ぎやう

去おつ日ひ月ツキ星ホ辰シ寒かん暑あつ冷れい暖だん

雨あめ露ツユ惠ろ子のめづか依よりて諸あ草さう虫むし

花はな咲さき実み成な結むすぶるのき水みづハ

春はる夏なつ秋あき冬ふゆの時とき候こうと能よく

注ちゆう意いせむんん不あ了ら有ひ

先まづ開ひら墾くわん地ち新しん田でん平へい均くわん相あひ

也方主来

アラタニヒラクトチ
アタラシキタ

滴御檢地八持主戸長

御繩を請石盛分米厘

付等土地しく上中下町

反畝歩追地熟田本茲

日向廣狭長短多少甲

乙空売高等しく爰地盛

衰と能可考又旱損水

換く手當を池溜井川

小堤つみを築きづ算ひ埋うめ植と以い土と
 手堰て齧うご路ろ閘ちがひ板せき羽い口くち柵さく
 石籠いしと逐ちく一いつ目もく論ろん見けん帳ちやう
 を以もつく年ねん々く村むら方かた々め物もの

入いりを可ふん分べつ別ま業ごう也なり又また以もつ土と
 拂をらひ下さげ地ちを魚うま々て相さう出しゅ々め
 目的こみを以もつて代たい價げと定さだ入いり
 札さつ一いつ開ひら札さつ日ひ限げん相あい極きま里り

再札らゝ之の上うへ高價かうかうへ落札らくさつ
 代價だいげん上納じやうのうお濟時あへすむとき地券ちけん
 收涉せうせつ渡わた下くだ半也はんや統上とうじやう
 考印かういん税ぜい履費ちやうひ地租ちそ百分ひやくぶん

一城いちじやう相納あひのう可申也まうまへなり又また
 無授地むじゆぢ所讓しよじやう式賣買しきうりかい之の
 儀ぎ之の右御渡者みぎごわたし一いち地券ちけん
 状じやう其區そのく生そのまゝ之の戸長とぢやう以もち

地方往來

二

裏書^{うらま}裏印^{おんいん}にて申^{まをら}相^あ彩^い地^ち

券^{けん}状^{じょう}讓^{あづか}請^{うけ}人^{ひと}名^な前^{まへ}印^{いん}書^か替^か

御^お渡^{わた}り上^{かみ}是^{これ}又^{また}前^{まへ}同^{どう}様^{よう}

諸^あ上^{じやう}納^{のう}等^{とう}可^あ申^{まをら}相^あ納^い也^{なり}

又^{また}質^{あち}地^ちに儀^ぎを借^か貸^か使^し

方^{かた}立^た合^あへ上^{かみ}戸^こ長^{ちやう}證^{しやう}書^{しよ}

奥^{おく}印^{いん}を請^{うけ}名^めに調^{てう}印^{いん}可^い

取^と也^{なり}扱^さ又^{また}捨^す地^ち帳^{ちやう}面^{めん}

引合度竿民因帳吟味

之上お後取極後日矣

麦冬く極の心然事也

又畑作物主粳糯早稻

晚稻等也畠地志麦大

豆小豆小角豆粟稗胡

麻荏菜種豌豆蚕豆隱

元豆玉蜀黍等豆耘耕

儲此為械之鋤鉤鋤犁

馬把獲竹把錢把篋齒

撥桶天秤棒箕持籠駒

柳澗簷扒樹蒲為提撐

橈間枕連架稻扱砵確

杵舂肘木挽磨箕泥悻

簸簾板簾間簾子石篩

筥筥拮擇庫桶水車甃

地志 往來

車龍骨くるまほね末ま義ぎ心こころ羅ら石いし籠かご

等と々と加脩かじゆ裡り破損はたん每日まいにち

田畑でんはたけをを見廻みまわ指さし因いん肝かん安あん

也なり肥こやし生は下しも茵いん馬ば糞ふん馬ば踏ふみ

草くさ干か鱈魚たらぎよ腸ちやう札さし苔こけ蕪わ子こ

蝦蛄えび糠ぬか油あぶら絞しぼ粕かす藁わら灰はい木こ

葉は茅ちやう也なり乾あんな中ちゆう米こめ生は初はつ茅ちやう

出で摘つみ田でん荷まき付つけ苗かき代しろ五ご月つき

文女草取鳴子案山子

堀後水曳水口板場

塩梅温友旱魁行雨葉

涎滑虫蝗く妨舌く粘

是又勸振才一也木綿

織道具を挽車唐弓同

了玄糸在纺流糸卷解拵

綜杭箴同櫃杼梭管高

檟こま下しも棧たか等と也なり平ひら常じょう糴りやく

之こ圓まる穗ほ唐たう米まい麦ばく挽ひ割わり秋あき

米まい粉こな割わり陳ちん倉そう米まい之こもも扱あつか

鑿こ搗たう搗たう精せい隨ずい分ぶん大だい切せつ尔に

俵たわ粮りやう蓄ちく置おき飢き饑きん之の苦く不ふ

渴かつ極ごく可か心しん懸けん幸こう中ちゆう一いち也なり

又また茶ちや菜さい子し之の常じょう小せう麦まい焦せう

粉こな米まい之の以もつ之の精せい心しん窄せやく人にん

亦餅或浮餛蛄蕎麥切池

沼川之魚自園之藜茶

聖菜家釀之酒之て蜜

魚又農業之隙之木樵

菰葉を捲る復草藪茶

或作草葉粟稗等之穀

之稻村茅卷之園之藜

山麓原萩落秣場之藜

草くさ一い至るとよ刈り取り牛うし馬ま豕ぶ

羊ひつじ亦も之の飼か料れう之も用もち叙ゆ家げ

之の造さう作さく之を以もつ丸まる太お塘たう立た

大おほ壁かべ繩なは統と底ち之を篋け子こ挽ひ

屋や根ね之ハ草くさ茅や菁ぶ青ま迫せ門と埒ら

墙うま开あ闭け之を締と括ま子こ連れん子こ

敷し居き鴨も柄へ户と俾ま子こ之ハ古こ

物もの之を用もち炭すす物もの之を莞わん蓬ぽう

序ごご并あま菓ね藉こと繒つ取とを以もて

足ととら假と令と珍ちん家ま之の苦せう

多おりご在ご奢おごを減げんし衣服いふく

を務つとて下さ用もち農の品ちゆへき事こと也なり

又また檢けん見み哉や傳つ坪つ前ま田ち場ば

立た札は毛け搦な合あ毛け附つ云いお

遠と極ごく心こ無む負ふ納な去き口くち

米こめ在あ赤あか玉たま去あ群ぐん意い等とう云い

之糧遂吟味米見外

村年窻立合饅饅念八

決而未進吾之秋之心

惡也將又道橋舟川

渡場往還大道之掃除

等之他村八會之地境

を不倫清潔亦成一可

置又惣る荷物之貫因

馬一疋ハ びま 一つ ひま 乘掛式拾貫のりかけしよ せん

種厩一駉十八貫うら しょう 一つ と せん せん せん せん せん 本馬ほんま

臺駉たいしやう 四十貫しよ せん 尤少なほすく

宛用控えんようこう 下した ありあり 領本乘りやうほんのり

物一もの 一つ 担たん 六人ろく びん 山やま 架籠かご

一一つ 担たん 去は 四人よ びん 盈あふ 分持ぶんち 去は

人ひと 七貫しち せん 目也め なる 其外その ほか 費せん

目め 七貫しち せん 一人ひとり 七貫しち せん

地方行考

同く積を以て可運輸

之御大法也平生

朝廷縣令を奉教乃之

分限として願幸を不待

云也又名所古跡古義

場内海意海八江湊港

濱古法不簡係せん

便利宜費を省一として

地勢詳解

十一

又猥尔山林之竹木哉
 不伐人之地且不掠隐
 田等之恶討を决る不
 可成又戸長村年寄の

小前之者を恵小前
 者を戸長村年寄の括
 揮ふ恒の農業に閑有
 時を學問尔志幼少

子弟を区内に小学校

不必入校せしめ單語

連語洋算習字より全地

學理學より至と勉勵

て才智を可擴張年際

安也又常に誠実を志す

と子弟を教導せしむ

輩を子弟孫繁栄又の閑

民也
伏ふ下げ 進しん步ふ 志し教けうの可こ為ゐ

地方ちが注ゆ来ら式しき編へん附ふ録ろく

地方ちが往わう来らい二に編へん附ふ録ろく

稻いねの異い名めい

中手ちゆうて弥や六ろく

米多こめおほく毛けカ
色いろ黄わうむむ

腰毛こしけ

尾お毛け縮ちぢあり米こめ野の
よよろろ色いろ白しろく穀こく少すくし

勾當餅こうどうもち

穀こくあり

鶉餅うぐいもち

穀こくあり少すくし
ふふろろととあり

六海色餅

早稲かり色白一鉢六より穀少一
まろしき毛稻かり

畦越

徳めけ出る鉢六より穀少一
色赤一お一毛稻かり

細餅

畦越より一毛稻かり
一米生う穀多一

烏餅

色黒一
穀中分

品葉

毛稻晩田一作り
尺半かり稲かり

出白子

晩田作穀少一毛稻
毛芝赤く尺半かり

花落

種穀
中分

永樂

色鉢六より一毛少一鉢六より
穀少一多く山中一作り

赤餅

毛稻かり赤く一
あり穀中分かり

菊餅

穀鉢六より
おあ一

出抜

江あより多一穀少一稲穂の
折まてよりヤ小尺ゆかり

腰折

穀多一弱稲かり出抜
似て思ふ一き稲かり

近江

少し大粒あり穀あり
少し甘味あり白

白餅

穀畦越子
にお

伊勢稻

早稲かり毛色黄むす
穂の赤きも有り穀あり

ちこ

水色に相應かり
足ゆ毛少し穀あり中より
晚田の如く

白海

毛少しあり穀少し
中稲かり

めん張

江州より多し
穀少し

伊勢海老

毛稲より赤
穀中分毛ハ短し

白葉

毛色白多し仍て毛白
晚田より有り穀少し

京上郎

田かり毛薄
穀中分毛少し

いっ不稻

強く足あり毛少し
赤穂あり升目あり

水く

ちこ不同し
似て穀あり

重餅

毛少し升目
有り穀あり

いっせん 赤穂餅カウ毛
カ一餅目申

千本 ちこみおカ一毛
あー穀多一

右の外品あり早稲ハ春の彼岸に種を下り中稲晩

田ハ少く宛間有り早稲中稲も同時ニ種を

おろ下りも有り右は心は依て少く遅速ありなり

蒙稟准新鑄

東京書林

相	鈴	藤	森	山	小	鈴	山	山	出	岡	和	和	和	和	須	須	須	須	
模	岡						城	城	雲	田	泉	泉	泉	泉	原	原	原	原	
屋	水	屋	屋	口	屋	林	木	屋	屋	寺	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	
七	勘	慶	治	藤	喜	喜	喜	政	佐	萬	嘉	吉	市	勘	金	新	佐	伊	茂
兵	治	次	兵	兵	右	右		兵	治	兵	兵	兵	兵	右	右	兵		兵	兵
衛	郎	衛	衛	衛	門	門	吉	衛	郎	七	衛	衛	門	門	衛	助	八	衛	衛

